



こばと

千葉市立第二養護学校

学校だより

令和7年12月17日

第8号

生活の力を育み、教師も共に学ぶ時間

教頭

3年生から5年生が参加するげんきキャンプ、そして6年生が参加する修学旅行と、子どもたちが楽しみにしていた宿泊学習が、無事に終了いたしました。保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。学校での宿泊学習は、集団生活を通して、子供たちが日常生活で必要な力や社会性を大きく伸ばすための、非常に重要な学習活動であると同時に、私たち教師にとっても、子どもたちへの理解を深める貴重な機会となりました。

特に、生活スキルと自立心を育むこと、そして社会性や協調性の向上に関わると考えます。

1. 生活スキルと自立心を育む

宿泊学習では、普段ご家庭でされていることを、教師と一緒に自分で行う機会があります。

身の回りのことでは、自分で布団を敷く、持ち物の整理整頓をする、食事の準備や片付けに参加するなど、生活に必要な具体的な動作を、教師や友達と一緒に確認しながら行います。規則正しい生活としては、就寝時間や起床時間、活動ごとに示された時間といった集団でのルールを守ることで、生活リズムを整える力や時間への意識が育まれます。

2. 社会性・協調性の向上

友達と寝食を共にすることで、他者との関わり方を実践的に学びます。

集団行動のルールとしては、公共の場でのマナーや、グループでの活動を通して、「順番を待つ」「協力する」といった社会的なルールを体得します。また、活動中の役割分担などを通して、集団の中での自分の役割を意識し、それを果たすことで貢献感や責任感が生まれます。

このような宿泊学習での子供の学びに加えて、教師にとっても、普段の授業では見られない子どもたちの新たな一面や潜在的な力を発見できる、学びの場でもあります。

慣れない環境ではうまく参加ができない子供が、いつもと同じように自分の力を発揮する場面。給食では苦手であまり食べない児童が、進んで食べようとする姿。普段は関心が異なる児童が、みんなが同じ場所で同じ生き物を夢中になって眺める姿。

私たちは、これらの発見を通して、一人一人の「強み」や「魅力」を再認識することができました。

今後は、宿泊学習での成功体験の共通理解や、この貴重な経験を通して得られた「教師の気づき」も大切にしながら、授業や生活指導において、さらなる自己肯定感の向上につながるような教育活動を展開してまいります。